

草創期の学士会

初代会長は、36年間に亘って京都大学の心理学を培い社会・実験心理学と領域を広げ、発達心理学では青年期の心理研究に業績のある野上俊夫氏（京都大学名誉教授）、2代目は数々の著作や辞書の編纂などで多くの人に馴染まれた吉澤義則氏（京都大学名誉教授）、3代目は野鳥の鳴き声の研究で世界的な川村多實二氏（京都大学名誉教授）、4代目は龍谷大学学長もつとめ、教育基本法の審議に教育刷新委員会主査としてかかわ



第4代会長
羽溪了諦氏



第4代会長羽溪了諦会長（中央）と三輪晃勢画伯（左より4番目）（昭和38年1月23日）

り戦後日本の教育制度の樹立に参画したインド哲学・仏教学の羽溪了諦氏（京都大学名誉教授）、5代目は医学者で病院長の河村栄太郎氏を経て、法人化により第6代（法人・初代会長）に日本大学会頭・古田重二良氏が就任した。5代目までは河村氏を除きいずれも京都大学名誉教授が続き、6代目に至って初めて私学から会長が選ばれたわけである。



社団法人全国日本学士会“新年賀詞交換会” 昭和46年1月23日 於：京都・都ホテル